

第20回県政ひざづめ談議結果概要

○ 開催時間 平成22年3月12日 10:30～

○ 開催場所 身延町中富地区公民館西嶋分館

〔司会〕

『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。司会を務めます広聴広報課長の堀内でございます。よろしくお願い致します。

まず、はじめに横内知事からあいさつをいたします。

〔知事〕

どうも皆さん、こんにちは。それぞれお忙しい中だと思えますけれども、こうしてお集まりをいただきまして本当にありがとうございました。

この『ひざづめ談議』は、私どもの都合で2回ほど日程を変更させていただきました、本当に皆さんにご迷惑をお掛けしましたこととお詫びを申し上げます。それから到着が遅れまして本当に申し訳ございません。

今日は、ここにありますように、この身延地区で特色ある農産物あるいは農産物加工品を作っておられる、大変に意欲を持って取り組んでおられる皆様方にお集まりをいただいたわけでございます。この『ひざづめ談議』というのは、色々な分野で活躍をしておられる皆さん方と、膝を付き合わせて日頃の皆さん方がお考えになっていることを本音でお話をいただいて、県の行政に反映をさせていきたいと思ってやっているものでございます。したがって、今日は皆さん方、こういう物をお作りになっていく中で色々ご意見がおりになりなろうと思えます。県に対するご要望もありませんし、そんなことを含めてざっくばらんに普段お考えのことを是非おっしゃっていただければありがたいと思えます。

県としてもそういったいろんなご意見に対して、できることはもちろんやらなければいけないし、またどうしてもできないこともありますから、そんなことはざっくばらんに私のほうからお話をさせていただきたいと思っております。そんなことで今日は有意義な会になりますように、よろしくどうぞお願い申し上げます。どうも皆さんありがとうございました。

〔司会〕

それでは引き続きまして、本日同席をしております県と町の担当者を紹介させていただきます。

まず農産物の消費拡大ですとか、地産地消の推進などを担当しております樋川果樹食品流通課長です。

〔樋川 果樹食品流通課長〕

樋川と申します。よろしくお願い致します。

〔司会〕

鳥獣被害ですとか、担い手対策を担当しております赤池農業技術課長です。

〔赤池 農業技術課長〕

赤池です。よろしくお願いします。

〔司会〕

それから身延町から農業振興などを担当しております串松産業課長です。

〔串松 身延町産業課長〕

串松です。どうぞよろしくお願いします。

〔司会〕

それでは早速意見交換に入らせていただきます。よろしくお願いいたします。

〔知事〕

色々な農産物をお作りになっている方々と、それからこういう加工品をお作りになっている方々と、それからそれを直売所で販売をしている皆さん方と、まあ色々あるわけですが、一つ色々お聞かせをいただきたいと思うんですが・・・。

この農事組合法人の下部の特産物食品加工組合、これは大体こういうものをお作りになっているんですね。

味噌とかね、小梅とか、フキとか・・・。大分売れていますか。資料を見ると大体横這いのような感じでね。

〔参加者〕

中でも梅と味噌は結構評判がいいんですよ。梅については生産者が高齢化してしまってますね。思うように原料が作れないというのがありますね。

〔知事〕

原料がね、そうですか。

〔参加者〕

実際には昨年は約600キロぐらいだったんですが、まあ今の時期になると新しい物を待たなければならないということで、在庫がなくなっています。

〔知事〕

そうですか、そうですか。

どの辺にありましたっけね、お宅は、直売所は。

〔参加者〕

下部の道の駅です。

〔知事〕

道の駅ね、300号沿いを上って行ってどの辺でしたっけね。

〔参加者〕

古関の手前です。

〔知事〕

お客さん多いですか。どのくらい来ますか。道の駅「とよとみ」と言えば、もう1億円以上で・・・(笑)

あれほどじゃないですか。

〔参加者〕

とてもあれほどにはいきません。

〔知事〕

売上げが大体こうやって見ると800万ぐらいだと、こういうことですから・・・

〔参加者〕

だから一番今ネックになっているのは、300号の道の悪いところなので、どうしても観光バスのお客さんが来ないんですね。

〔知事〕

そうですね。なかなか観光バスが寄らんとなかなか難しいですね。あれ中ノ倉の所がうんとピンカーブがあるものだから運転者が嫌がるんですね。だから観光ルートにならないんですね。本当はやっぱりこの富士北麓と、この身延山と下部温泉、これが十分観光周遊ルートになるんですけどね、それを嫌がるんですね。だからあそこを来年度からいよいよ本格的に、もう観光バスでもスムーズにすれ違えるように改修を始めますけどね。中部横断道ができるまでには、それはもうできるということになると思いますけどね。そうすればかなり観光客も、観光バスが通りますからね。すると途中で当然寄るということになると思うんですね。

〔参加者〕

結構、桜の時期と紅葉の時期ですね、そういう時にはある程度混んでいるんですがね。紅葉はすごくいいですし、身延山の桜もあります。だから春は上の富士北麓から下ってきて、そして秋は下の下部から上がっていくという、そういうお客さん多いですよ。そういう人たちがやっぱり寄ってくれないと。

〔知事〕

確かにね。

〔参加者〕

それと一番の悩みは、やっぱり高齢化しているからなかなか原材料が足りないことです。実際には梅だって年間1トンぐらいは最低でも欲しいんですが、このところ600キロぐらいです。

味噌の大豆にしても町内で今年が1,400キロぐらいですか。できれば2千キロぐらいは欲しいです。段々段々、高齢化してきて生産が落ちていきます。

〔知事〕

町内というのは身延町全体ですか、それとも旧下部町・・・

〔参加者〕

旧下部町ですね。

〔知事〕

ちょっと広げてもいいように思いますね。曙大豆なんて素晴らしい大豆を作っている方々がいるわけですが、ああいうものがあるって、これは非常に皆さん注目をしてくれてますからね。こういう物を売ったりとか・・・

〔参加者〕

一応うちの場合、始めたのが地産地消ということで、地域で作った物を加工していこうというのが始まりです。まあ今年あたりから町内全体へ、あくまでも在来種の大豆ということをやっています。

それに加えて、できれば請負的なこともできればと思ってます。それにはその組合も必要ですからね、資金的な問題がやっぱりあるんですね。畑なんかも小さいので、大型のものが入らない。だから要するに小型のものでもってできるような方策を考えていかなければならないということはあると思いますよ。

そういうものに対して県で補助金がどういう形で出してもらえるのかね。今、特に農業を辞めて1、2年使ったいろんな機械があるわけですよ。中古品なんですけど、実際にはこの先10年も15年も使えるのもあります。そういうのを農機具屋が下取りしてしまいます。そういうものを借り上げて使うというようなことでもって、それに対する補助金というものも考えられるかどうかということですよ。そういうようなものがあれば地域全体でいろんな面で役に立つと思います。

〔樋川 果樹食品流通課長〕

補助金という形の制度の中にはなかなかちょっと中古品は載りにくいということがありますね。

〔知事〕

まあ新品を買わなきゃだめだというのもちょっと変な話で、中古品だって中古を売っている店があればそれを買ってくればそれでもいいと思うけどね・・

〔参加者〕

結構性能が良くてね、1年使ってもうおしまいになってしまうという機械が多いんですよ。そういう人たちは置いてもしようがないからと農協に安く出すという。新しい機械が80万とか100万する。中古品だと1年使った物が30万か40万ぐらいで買える。できればそういうようなものを何か小型のものでも補助があればと。

〔知事〕

そうですね。いろんな支援策というのは、中古はいいかどうかともかくとして、いろんな支援策はあるにはあるんですが、そういうものは検討するとして、やっぱり積極的に販売を特色のあるものを置いて、あの道の駅にはこういう面白い物があるとか、そういう物が出るといいですね。そうやってちょっと有名になるとお客さんはずいぶん来るんだらうと思うんですよ。

〔参加者〕

結構今お味噌なんか、これなんか評判が良くて、リピーターみたいなものが付いていますね。県外へも電話一本で注文受けて発送している。そういうのが結構あるんですね。

〔知事〕

他に皆さんいかがですか。何でも、どんなことでも結構ですけどね。

〔参加者〕

ちょっとよろしいですか。今のに関連しますが、梅に関しましてもある程度もうちょっと組合で収穫する、集荷は出来るんですけども、それに伴う貯蔵庫ですね。1年分を5月に収穫、取り入れまして、小出しにするために大きい樽へ寝かしておくわけですが。それを4度から5度ぐらいの温度で保っておかないと梅自体も柔らかくなっちゃいまして、梅が乾いちゃいます。あれば売れるんですけども、いわゆるその貯蔵庫を増築するために非常に莫大な費用が掛かるわけなんです。ですから是非この県の認証マークをもらって非常に一生懸命たくさん売っているつもりですけども、まだまだ売れる余地はあると思います。もしできましたらそういう貯蔵庫の関係の補助金があれば、またこれが地産地消につながると思いますので、是非ご協力をお願いします。

〔樋川 果樹食品流通課長〕

それにつきましては県単の事業、やまなし農業ルネサンス総合支援事業というのがあります。そういった形での対応はできるかと思います。農務事務所がごございますので、役場を通じてうちのほうにご相談いただければと思います。

〔参加者〕

手打沢組合では、ルネサンスの支援事業を採用してもらいまして、加工所が仕上がって、貯蔵用の冷蔵庫も県の支援をいただきまして、昨日入りました。タケノコを主にやっているんです。

〔知事〕

タケノコですね。そうですか。

〔参加者〕

そのあとニンニクもあります。

〔知事〕

ニンニクね。そうですか。タケノコはあの辺でもかなりいい物は採れるんですか。この辺だと富沢だけだね。

〔参加者〕

タケノコも県の支援で竹林の下刈りをしました。

相当違います。中が猪が歩けないくらい竹が生えていたのですが、すごいきれいになりました。お陰さんで。

〔知事〕

（写真を見ながら）ここはきれいになりましたね。

猪の運動場みたいになっちゃって・・・（笑）

まあ猪に取られる前に採らなきゃいかんですね。まだ土の中にあるうちに。

〔参加者〕

その辺を早急に考えて、猪対策を考えていこうじゃないかというような・・・

〔知事〕

一応電触柵は。

〔参加者〕

今は何もないんです。今まで猪も入れませんので、そういう心配はなかったんですね。

〔知事〕

今度は猪が入ってきますね。

〔参加者〕

今まであったのを全部伐採しまして、そして間引きして、今度それを機械を借りてチップにして、全部その中にいれて肥料にしました。

中が絨緞を敷いたようにきれいなんですよ。

〔知事〕

この電触柵は中山間事業を身延北部でやっているから、ああいうもんで地元の町が計画すればできるんでしょうけどね。

是非がんばってもらって、富沢のほうが産地ですが、あっちが脅かされるぐらいに競争してもらって、大いに一つやってほしいですね。

〔参加者〕

遊休農地、耕作放棄地を開墾していただきまして、菜の花を約60アールありまして、それが今のこれでございます。幼稚園の子供から区民の方々みんなに集まっていただいて農政部のほうの応援を得まして皆さんで約60何名ですね、みんなで集まって種を撒きました。そして今度、幼稚園の園児が菜の花を摘む計画をしておるんです。

〔知事〕

そうですね。そういうことも是非一つしっかりしてもらって、菜の花というのも菜の花プロジェクトと言うんですけどもね、これは行って摘んできてお浸しにして一杯飲んでもいいし、花が咲けばきれいだし、種が採ればその種でまた油を作ってというようなこともあるし、耕作放棄地を有効に活用していくんですけども、とりあえず活用の方法がないというような時にはこの菜の花を植えておけばいろんな意味でいいですよ。これは是非広げてもらうようにがんばってもらいたいと思うんですね。

〔参加者〕

曙大豆を生産しております。富士川沿いの両岸というのは、昔から水害を受けながら田んぼにしようという苦勞を重ねてきたんです。食料事情が変わって、転作が進められて来たというような経緯の中で、高齢化もあるし、ぼつぼついわゆる荒れ地が出てきたんです。

そういう先達のご苦勞や配慮を思えば、荒れ地にしてはすまないというような思いで取り組みましたが、県・町の指導の中で機械化が大変進んでます。そういう中ですが、課題は話しましたように高齢化対策をするということで、農協さんにも入っていただいて、土地利用の効率化を検討して対応していこうというようなことになっているところです。一層県のご指導をいただきたいという状況です。

〔知事〕

なるほど、分かりました。

そうですね。是非がんばってもらえればね。

〔参加者〕

NPO法人エコクラブみのぶです。EM微生物を使いまして環境保全型の農業ということで、養鶏をしております。飼料としまして、各施設、学校給食を中心ですけど、各施設から生ごみとか、食品残渣を集めてきまして鶏の餌として使っております。ただこ

れが生ごみと、その他の残渣ですか、それが一般廃棄物と産業廃棄物に入っております。それで我々は何年か仕事をやってきながら、県の許可をお願いしたんですけど、それが通らなかったんです。それは免許を取らなきゃダメなのかと思ひまして、一般廃棄物の免許と産業廃棄物の免許を取りました。でもまだ土地の問題が残りました、NPO法人ではできなかつたんです。そういうことで回収するにも有料でしないとこちらでも商売ですから、それで許可も下りない関係でそれまで無料でやってきました。それで今度何か法律が改正されまして、できる部分もあるようですけど、産業課さんにお世話になってまたお願いしたいと思うんです。以前県にも補助金をいただいてここまでやってきました。

卵と小麦粉が置いてあるんですけど、これも一応鳥の鶏糞、まあ微生物ですからEMの入った鶏糞で作っております。身体のためにも、非常に健康のためにもいいということです。

〔知事〕

資料には54人の方がおられますが、どの辺でやっておられるんですか。

〔参加者〕

道の駅しもべ、ちょうど古関の地域になるんですけど・・・

〔知事〕

古関。あの辺ですか、そうですか。

あの辺の地区の方がこういう養鶏場みたいなのをやったり、あるいは小麦を作ったりしておられるわけですか。

〔参加者〕

はい。

町の協力を得ながらここまでやってきましたけども。

〔参加者〕

中心ですけども、会員さんは身延のほうの方もいらっしゃいますし、身延に大体広がっていていますね。

〔知事〕

そうですか、そうですか。このEMは非常にいいですか。

〔参加者〕

いいですね。

〔知事〕

沖縄の先生がこれ広げているもので、ずいぶん広がってきましたですね。

〔参加者〕

浄化にいいですね。臭いも消しますし、環境浄化には一番いいですね。身延山病院の浄化槽もさせていただいているんですけど、あの病院の浄化槽の臭いも消えています。

〔参加者〕

一昨年は富士山まで行って来たんです。5合目から1合目まで、トイレに。

〔知事〕

エコトイレというか、あれに環境配慮型のトイレの菌としてもいいんですか。

〔参加者〕

はい。

〔知事〕

そうですか。それは大したものですね。

〔参加者〕

そして1年でちょっと、向こうの事情もありまして終わりましたけど・・・。

〔参加者〕

だからただ農業するんじゃなくて、無農薬ということを目指しています。

本当に身延町の医療がとても高い、まあ山梨県も高いでしょうけどね。医療費というものも考えながら、みんなの健康を考えてできるだけお医者さんに罹らないようにしていただいて、そして長生きしてもらおうというのが目的でやっています。

〔参加者〕

微生物、これ善玉菌の微生物ですから腐敗を抑えたり、身体の悪いところが出ないように善玉菌で健康な身体にしていきます。

〔知事〕

これは販売をどういうふうにやっているんですか。

〔参加者〕

これは今、道の駅とか、スーパーさんとかですね。あと会員の方ですね。

〔参加者〕

ちょっと経営のほうが大変なんですよね。だから中部横断道開通を待ってられないので、この前に何か直売所を是非造っていただきたいですよね。

〔参加者〕

直売所と、それに加工場というのがなかなか私たちはないんです。保健所が結構厳しいですから、ちょっとした加工場を造るにも大変なものが掛かるので、その直売所と一緒に誰でも使える加工場があったら、もっと他にもその小麦粉を使ったうどんを作りたいという人もいますし、町内温泉もありますからね、その温泉の人たちもそういうことを考えているらしいんですけど、作業場がないですよ。保健所の許可がでないの。そういったものを是非何とか町としてというか、誰でも使える・・

〔樋川 果樹食品流通課長〕

町にご相談いただければと思います。助成の制度というのはありますからね。

〔知事〕

こういう補助する仕組みはあるんですがね、直売所を造ると今度は競争相手になっちゃったりするからね・・(笑)

〔参加者〕

誰でも使えるような、今味噌工場の方たちは貸出ししてくれるんですけど、味噌以外の加工もしたいという人もいますね。

〔知事〕

それはできると思いますね。

皆さんに話がまとまればですね。

〔参加者〕

私は一緒のグループで活動しています。農村女性アドバイザーの研修も受けたりしているんですけど、なかなか実践する機会がなくて、グループ作って今のところやっています、エコの人たちと一緒にいますから。

その今の話のように作って売り出すというところに目を付けて、米のとぎ汁にEMを入れまして、米とぎ汁発酵液を作って、その液が肥料の代わりになるし、下水道もきれいになりますし、畑の土も酸性化しているのがアルカリ性化になってとてもいい土に変わってきます。

若い人たちから、「売る場所がないものを作っても困るし、働き場所もないし、自分で食べるだけじゃそんな作っている暇もない」なんていう声を聞きます。是非、加工場と売り場が欲しいのです。

「3年経てば300号が広がるんだね。8年では中部横断道につながって、何か魅力が持てるね。じゃあがんばろうね」という若い人の声がありました。15年のリニアまでは程遠いから、8年ぐらいじゃあ何とかかなるねなんて言っていました。だから是非お願いいたします。

〔知事〕

是非がんばってもらいたいと思いますね。だから皆さんで相談して、是非じゃあこういうようなものを造りたいということであれば、それは町に相談すればいいですか。

〔樋川 果樹食品流通課長〕

町にまず相談していただければ・・・

〔知事〕

相談してくれれば大丈夫だと思いますから・・・
あとはいかがですか。

〔参加者〕

ゆばの里です。そこにゆばを持ってきました。

今、学校給食で使っていただくようになりまして、通常出しているのは冷凍のゆばなんです。地産地消でも、まだ県産大豆というのがそんなに量がなかったものですから、たまたまうちでやっているゆばはほとんど、県外から大豆はもらっていたんです。今度はそういう地産地消という形で・・・

〔知事〕

曙大豆があるじゃないですか。

〔参加者〕

ゆばを作るのに曙大豆でやったんですけどね、品質が良すぎて、すくうのにゆばが非常に厚くなっちゃうんですね。そして大きくなっちゃうんで、非常に立派すぎて、もうちょっと質の低いやつの方がゆばには合うんです。

〔知事〕

これは難しいもんですね。

〔参加者〕

大豆にも何十種類とありましてね、それをブレンドしてやらせていただいているんですけど、非常に難しいブレンドの仕方があるのです。

そしたら北杜で今大豆をかなりやっていますよね。

〔知事〕

ええ、長坂でやっていますね。

〔参加者〕

あの大豆をいただいてやるようになりましたからね。だからいいゆば、おいしいゆばができましたので、それで学校給食へはそちらのゆばを使っていただくように働き掛けてや

っていただいています。

〔知事〕

ゆばの里は、かなり売れ行きはいいですか。

〔参加者〕

大体1億7千万ぐらい・・・

〔知事〕

1億7千万売れる、大したもんですね。

〔参加者〕

大体ゆばだけで4千万ぐらいは売っているんですけど、場所が非常にいい所にありますので、僕らは中部横断道はやってほしくないという・・・(笑)。

国道が車が通らなくなると困るので、是非52号線沿いに中部横断道が出て欲しいと・・・

〔知事〕

中部横断道に人が来れば下にも下りてきますからね(笑)。

〔参加者〕

そうそう。だからそれは全然心配じゃない。それはまあ今度売る所を考えればいいわけですからね。

〔知事〕

まあそうですね。

〔参加者〕

あとはその大豆を身延でも今度は相又で大豆をかなり作る畑を作ろうと。でも人手がないので、それでどうするかということで、東京の大学生に是非研修で来てもらおうと。そういう計画を今年立てまして、それをやってみようかなという形があるんです。

〔知事〕

若い人は喜んでそういうのは、楽しんでやりますよね。

〔参加者〕

そういうのに参加してくれているところがあるので、声を掛けるとかなり集まってくれるから、そういう形でやってみようかなと思うんですよね。

あとは枝豆の収穫では商工会でうちの近くの畑だとかで収穫祭をやっています。これは非常にお客さんが見えになっていますので、こういうのをどんどんやって、人を集めないといけないということで考えてはいるんですけどね。

〔知事〕

そうですね。都会の若い人に色々な方法で声を掛ければ集まってくるんですよね。

〔参加者〕

そして今年色々やって、うちの仲間がやっているんですけど、これはキャノンさんなんですけど、企業の福利厚生で相又の農業地をとりあえず借りていただいて、そこで体験をしていただいてお米を作ってもらおうというようなことを今計画を立てているんです。

〔知事〕

NPO 法人の「えがおつなげて」ですね。この方々が各地域の資源を活用して企業などと農村をつなげていくような事業を県下各地でやろうとしています、その一環ですね。

〔参加者〕

それに我々仲間が入ってきまして、そんな形で放棄地が少しでも農地になってくれればと。あとは猪とか猿とか、そういう被害が、我々が食べる前に食べていただきますので・・（笑）、非常にこれらも苦勞していますけど。そういう形の中で網の中で今農地をしなければならぬということ、どっちが動物でどっちが人間なのかよく分からないというようなどころもあるですよ。みんな苦勞していますけども。

でもまあそういう形で若い人たちに入ってきてもらえれば、あと身延山だとか、下部温泉だとか、ここの和紙の里だとか、そういう所があるので、来ていただければお客さんも入ってくるんじゃないかと思っているんですけどね。そして今月27日にクラフトパークにも「切り絵の森の美術館」がオープンしますので、我々もいろんな面で協力していこうと思います。

〔知事〕

お客さんが大勢来ればね、かなり販路は広げられますよね。

〔参加者〕

そう思いますけどね。ただ売る所がしっかりあればと。

〔知事〕

そうですね。こういう田んぼで絆づくりという団体があるんですよね。こういう所と提携してやっていくといいですね。これは是非がんばっていただいて、県も何かできることがあれば応援しますので。

〔参加者〕

ありがとうございます。お願いします。

〔参加者〕

私、今聞いていて皆さんすごく元気ですよ。一番元気がないのは40代、50代のちょうど子育てをしている私たちの年代が一番元気がないじゃないかと。それは今まで話なかったんですけど、今こういう景気なものですから子供を育てていく上でとても元気がないですよ。皆さんの話を聞いていると、夢ではなくてもう現実のもので自分を大きくしていこうとしていますよね。

先日の知事さんの県政報告会も私行かせてもらったんですけど、リニアの話も中部横断道の話も私たちからしたら夢のような話なんですね。それよりも目先の今のことしか考えられないような今の時代でああいう話を聞くのは、まあそういう礎がないと景気が良くなった時にリニアが走るといってもとても無理な話で、とても今からそういうことが大事なことだと思うんです。そういう意味で、この土地に、手打沢にお嫁に来て、何人かの井戸端会議で「とんでもない所に来ちゃったね。どんどんどんどん僻地になっちゃって」という所だったんです。

でも、この1年で手打沢はずいぶん変わったんですね。この春には菜の花がたくさん咲きます。それだけでも活気がある村になったと思います。それは県の皆さんと町の皆さんのお陰もあると思うんですけど、これからはそれを収穫してどうしようという問題になると思うんです。またその時には組合長さんなんかと相談して県にも是非色々力を貸していただきたいと思うんですけれども、まだまだ耕作放棄地もあるので、そういう所もこれからどうしていったらいいのかとか、またご協力をお願いしたいと思うんです。

〔知事〕

是非色々考えて新しいことをやっていただいて、そうすれば元気が出ますよね、その地区全体にね。

〔参加者〕

そうなんですよ。元気が私たちの年代ないです、本当に、正直言って。そして先ほどの300号の話があったので、これは余談なんですけど、実は主人は建設会社に行っています。この辺の建設会社、とても仕事がなくって元気がないです。それで300号が良くなるという話をしたんですけど、多分大きな工事になると東京のほうの大きな業者が入ると思うんですけど、その土地の中小企業を稼がせるためにも、是非中小企業を・・

〔知事〕

そうですね。それはその通りですね。

〔参加者〕

是非よろしくお願いします。

〔参加者〕

先ほどから話が出ていましたけど、大島地区も皆さんと同じように猪とか鹿とか猿とかが大変出るんですよ。そして去年なんか大豆を撒いたんですけど、みんな食べられちゃ

ったんですね。それは鹿が富士川に巣を作っていて、そこから朝早く来て食べちゃうらしいです。そして猿がジャガイモなんかも掘って食べちゃう。

そんな中で大島の土地にはジャガイモが適しているということで、そしてコロッケを作るように皆さんで相談しましてね、そしてコロッケを作ったら、とても甘くておいしいという評判で、よく売れています。そしてお饅頭もそこにありますけれども、地元の小麦粉で作ったものです。

〔知事〕

これは酒饅頭でもないんですね。

〔参加者〕

そうではないです。よもぎと小麦粉で作っているんです。そんなことで今のところ私たちも始めたばかりの時は60代でしたけど、今はもう後期高齢者になりかけていますので、それでお医者さんに通いながら皆さんがんばってやってくれていますけれど、とても楽しみにして皆さん出かけて来てくれています。また一度買いに来てくれたお客さんは、とてもおいしかったと言ってまた買いに来てくれているんですよ。そんなことを励みに皆さんでがんばっていますけど、何と言っても高齢者の後を引き継いでくれる若い人たちに・・・

〔知事〕

奥さんの方でいないですか、若い人は。

〔参加者〕

いないですよ。いても何て言うかね、退職したばかりの人たちもいるんですけど、うちに年寄りがいるとか、何か色々そういうのがあってなかなか出てきてくれないんですよ。

でも皆さんがんばって来てくれて、そして加工品が仕上がるとそこで一息ついてお茶なんか飲んで、世間話に花を咲かせると。それが楽しみで皆さん出てきてくれるんですよ。そんなわけで、今がんばっていますけれど、色々と陳情していいかどうか、欲しい物はいっぱいあるんですけど、まあ現状のままでやっていけないこともないですけど、去年ですか、町のほうへ保冷庫を作っていたらいいということで陳情したんですけど、何か予算がないということで、今年度の予算はないからということでだめになってしまったんですよ。

でも、直売所を県や町とかにお願いして、そしたら地産地消というんですか、そのお金を回していただいて、直売所を兼ねた工場を造っていただきましてありがとうございました。もう本当に皆さんがんばっていますので、直売は欲をかくけど個人個人は本当に欲かいていないんです。

〔知事〕

そうですね。こうやって奥さん方のこういうものを一回買った人たちは、ああこれはいいやと。それでリピーターが来るんでしょう。

〔参加者〕

そして来るお客さんも私たちを見て、皆さんはいいですねと。こういう所があって、いきがいがあるでしょうって。私たちもこういう所が欲しいって、お客さんが羨ましがりますよね。みんなお年寄りが働いています。

〔知事〕

若い奥さん方も入ってくればいいですね。

〔参加者〕

そう、それが一番ですね。

〔知事〕

そうですね。是非がんばっていただきたいですね。大島というのも非常に平が多い所ですね。田んぼもずいぶんあるし、やっぱりしかしあの辺も獣害が多いですかね。

〔参加者〕

ええ。何とかそれを一番最初に・・・

〔知事〕

鉄砲で撃つたらいいと思うけど、猟友会はだめですかね。

本当は撃てばいいんだけどね。お金は出しているだよね。なかなかやっぱり・・・

〔串松 身延町産業課長〕

今言われた猟友会の皆さんに、町でも協力させていただいてやっているんですけども、やはり有害鳥獣の個体数が多くてなかなか難しいようです。

〔参加者〕

ひと頃は鴨を飼っていたんですね。なぜ鴨をなくしたかというのと、働いた鴨は引き取ってもらえないんですよ。

〔知事〕

合鴨を田んぼにね。

〔参加者〕

結構、800から900、千羽ぐらい飼っていましたよね。あれは楽しかったですけどね。本当に働いてくれるから。でもその引き取ってくれる人がいなくなっちゃって、そして中止になっちゃっているんですけど、無農薬でいいし、本当に働いてくまますから。

〔知事〕

引き取ってくれる所がありそうなもんだと思うけど、なかなかね、そういうお客さんを見付けるのは大変ですよ、なかなかね。

〔参加者〕

宮木の振興組合です。個人的に今考えているのは普及センターの方とも相談しながらしているんですけど、ビニールハウスをつくれれば、宮木振興組合でも若い人たちが入ってくれるんじゃないかと思っています。今、計画をしてハウスについて補助金が県でもって貰えるのかなというふうなことをちょっと考えているんですけど。

〔知事〕

そのハウスで何をお作りになるんですか。

〔参加者〕

年間通してその季節の野菜ですね。

〔知事〕

野菜をね。そうですか。それはどうですか。

〔樋川 果樹食品流通課長〕

計画の中味によって、どういう制度がまず使えるかとかということになりますので、具体的にどんなことをやりたいのかということをお話をちょっと役場と相談させていただければと思います。

〔知事〕

宮木も土地が平らな所ですからね。まあそうやって有効利用できればいいですよ。

〔参加者〕

今言うところの大豆と水稲だけでは、今言った農業に魅力がないということで、そして働く人もこの冬場はほとんど遊んでいるような状態ですから、だからハウスでやれば年間通して何らか動いているんじゃないかというふうな考えを持っているんですけどね。

〔知事〕

そうですか。それは是非一つ検討してもらって、県も応援させてもらいますから。ほかにこの際ですから是非というお話があれば伺いたいと思いますが、どうですか。

〔司会〕

いかがですか。せっかくの機会ですので、心置きなく・・・

〔参加者〕

いいですか。例えば請負農園というのは一応組合の中でも考えているんですが、ただ規模がみんな小さいですね。先ほど言ったようにちょっと高齢化しているということもあるんですけど、小さい規模でも小さい機材でも入れて、そういうものも補助金の対象になるのか。こういう制度をやった場合に、そういうものに対する何か援助制度があるのかとか、その辺ですね。

〔知事〕

請負というのは耕作放棄地になっているような土地を借りて・・・

〔参加者〕

それと同時にもう一つ、田んぼなんかやる場合、今、代掻きがまず困る。それから田植も困る。それから稲刈りも困る。それでもって放棄地になってしまうということがあるんですが、それを手助けしながら自分でできることはやってもらって、例えば代掻きとか、そういうようなものだけはやりましょう。刈るだけは刈りましょうと。そういうような請負制度をやりたいと思っています。

〔知事〕

なるほどね。それは組合がおやりになるんですか。

〔参加者〕

できれば組合で・・・。

〔知事〕

それはどうですか。ずいぶん水田についてはそういうのがずいぶんありますよね。

〔樋川 果樹食品流通課長〕

耕作放棄地を何とかしようということで、今かなり県も、国も今対策を進めている中で、耕作放棄地をやっ払いこうということについての助成というのがかなりたくさん制度があります。それ以外にも色々田んぼの請負とか、そういうことでやるについて具体的にどのような形でやっていくのかという構想と言いますか、計画みたいなものをやっぱり詰めていただいて、それに対してどういう応援ができるのかということ町と県と相談しながらやっ払いければなということだと思えます。

〔参加者〕

まあ一つは耕作放棄地が出る前にそれをやろうということなんです。耕作放棄地、とにかく山付きですからね、旧下部町と言うのは。ほとんどが3畝とか4畝とかというような小さい田畑が多いですから、そういうふうなものをやっ払いやるということになると、できるだけそれを放棄地にしないようにしていきたいのです。

〔知事〕

そうですね、おっしゃる通りですね。

〔参加者〕

改めてやろうと言っても、本当に山付きの所なもので、実際にはそこをまた新しくすると大変です。この辺の平の所と全然違いますからね。せめて耕作放棄地にならないようにしていきたいですね。

〔知事〕

色々皆さん方考えを、どうしたらいいかというお考えを持っているようで、是非一つ町とか、今日は農務事務所はどなたが・・・、ちょっと立って顔を見せてもらって。こういう人がいますから。遠慮なく言ってもらって、農務事務所は分かりますよね、場所はね。言って遠慮なく色々相談を、ざっくばらんに相談してもらいたいと思いますですね。

色々応援をする制度というのはたくさんありますので、まあ大体皆さんのご要望に添えるんじゃないかと、しっかりした計画でさえあればと思いますので、是非一つがんばっていただきたいと思いますですね。

〔司会〕

それでは知事から今日の感想を含めまして、まとめの挨拶をお願いします。

〔知事〕

どうも皆さん短い時間でしたけれども、それぞれ貴重なお話を聞かせていただきましてありがとうございました。色々ご苦労されながらも、また問題を抱えながら一生懸命前向きにそれぞれのグループの皆さんが取り組んでいるというのがよく分かりまして、まあ我々も町と一緒に皆さん方のいろんなご要望に対してはできるだけ応援していきたいと思っております。さっきも申しましたように町とか、あるいは農務事務所に何でもざっくばらんに、そのために役人というのはいるわけですから、遠慮なく相談をしていただきたいと思っております。

何にしても苦労は多いですけれども、何かしかし前向きに、だめだだめだとか、厳しい厳しいとか、そういうことばかり言っても仕方がないわけで、やっぱり前向きに少しでも前に進んでいくという努力をしていけば、あちらの方が言っていたようにやっぱり地域は明るくなっていくというふうに思います。中部横断道が出来ていくわけでありますが、出来ればこの地域も大きく変わってきますけれども、その前に、まだ10年近くありますから是非中部横断道が出来る時期を目指して、それまでにこの活性化が出来るように皆さんががんばっていただきたいと思っております。またこういう機会があれば是非ご意見を聞かせていただきたいと思っておりますけれども、今日は貴重なご意見をありがとうございました。是非ががんばっていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。

〔司会〕

それでは以上をもちまして『県政ひざづめ談議』を閉じさせていただきます。